



北極圏の島に旧約聖書の「ノアの箱船」に例えられる施設がある。ノルウェー・スバルバル諸島の「世界種子貯蔵庫」は、世界中の作物の種を冷凍保存している。災害や戦争による絶滅から守るのが目的の施設は、温暖化により予想外の荒波にもまれている。(ノルウェー北部スバルバル諸島 広瀬誠、写真も)

雄大なフィヨルドを望む斜面に、三角形の巨大な貯蔵庫の入り口が見えた。2月25日、世界各地から来た種が入った箱が、約130mのトンネルの先にある貯蔵庫へと運ばれていった。冷却装置を備え氷

# 「作物の箱船」 温暖化危機



●世界種子貯蔵庫の内部(2014年撮影、佐藤和広教授提供) ●世界種子貯蔵庫の入り口で、新規に種が運び込まれるのを記念して歌う聖歌隊(2月25日)

## 105万種の種

点下18度に保たれている。この日、種を持ち込んだのは、台湾やブラジル、スーダンや米英などで作物の種を保存している36の「ジーンバンク(遺伝子銀行)」だ。それぞれの国の独自施設で保管している種子の予備で、災害や紛争で被災して種子が失われる事態に備えるためだ。パキスタンからトウモロコシなどの種を持ち込んだ一人は「地震に洪水、インドとの緊張関係もある。明日、何が起ころうか誰にも分からない」と語った。

台風などで相次いで種を失う試練を味わう東南アジアの

## ノルウェーの島

国々では、種の保管にふさわしい設備を持たないところが多い。2008年設置のスバルバルの貯蔵庫に今日、種子を預けている機関は85、作物の種類は約105万に達する。1種類平均500粒で、合計約5億粒が納められていることになる。

利用は無料

利用料は無料で、預け主だけが返還を請求できる。15年に紛争でシリアのジーンバンクが使えなくなったときには、この貯蔵庫から麦や豆の種が引き出され、レバノ

ンなどで増やして栽培を続けることができた。貯蔵庫開設は、温暖化の進行などで生物の多様性が失われていることへの危機感が背景となった。スバルバル諸島は永久凍土の山々に覆われ、低温を維持できることから、世界のジーンバンクなどが立地に適していると目を付けた。

ノルウェー政府が国際貢献になるとして、900万(約9億4000万円)をかけて建設した。施設は停電しても冷凍状態で、そのものは維持でき、海抜130mの位置にあるため海面

## 周辺凍土が溶解



日本はオオムギ

日本から唯一参加する岡山大学資源植物科学研究所は14年以降、約5000種類のオオムギの種を預けた。佐藤和広教授(育種学)によると東日本大震災で東日本の研究施設が被災したため予備保存の必要性の意識が高まったとい

い、「種子のDNAは放射線

で損傷するため原発事故でも影響を受ける。遠隔地で地中にある貯蔵庫なら安全度は高い」と話した。

スバルバル諸島は夏以外は0度を下回る寒冷な気候だが、温暖化が急速に進む。専門家約50人が昨年まとめた報告書によると、過去約50年で諸島の気温は3.5度上昇した。世界で温室効果ガスの削減対策が何も取られない場合、2071〜2100年にはその100年前と比べ10度の気温上昇もあり得るとい

う。

実際、16年頃には貯蔵庫周囲の永久凍土が解け貯蔵庫につながるトンネルに水が流れ込んだ。ノルウェー政府による改修工事の間、種子の運び込みは円滑には行えず、改修工事が完了し、大規模な運び込みは今回が久しぶりとなった。

上昇の心配もない。ソルベルグ首相は「好条件の場所なので、我々には国際的な責任がある」と力説する。

アフリカ南部16か国はザンビアで共同で種を保存しつつ、スバルバルの貯蔵にも参加している。責任者のジャスティファイ・シャーパーさん(38)は、「地域では干ばつが頻発し、作物が全滅することもある。気候変動に対応できる作物の種が失われれば地域が危機に陥る」と訴えた。